

「釜石に希望はあるか」

# 東大社科研がシンポ

来月3日

釜石に希望はあるか――。そんなテーマのシンポジウムが3月3日、釜石市内で開かれる。釜石を調査地に「希望学プロジェクト」に取り組んでいる東大社会科学研究所

が主催する。「繁栄と衰退」を経験した釜石における希望の意味を探ろうというものだ。

同プロジェクトは「希望を社会科学する」として05年に開始。釜石で昨

年9月下旬、本調査として同研究所の学者ら約30人が市民にインタビューなどを行った。成果は07年度に報告書にまとめるといい、中間報告としてシンポジウムを開

く。

シンポジウムでは、プロジェクトリーダー役の玄田有史・同研究所助教が「希望学プロジェクトと釜石」と題して語る。釜石での調査概要の説明に続き、「衰退から再生へ―製造業に着目して」「新産業の創造に向けて」「釜石のグリーンツーリズムと都市イメー

ジ」「地方における希望―釜石市の経済活性化」のそれぞれのテーマで中間報告がある。

3月3日午後1時～5時40分、市民文化会館中ホールで。入場無料、申し込みは不要。